

湘南慶育病院

落合 俊太(リハビリテーション部 作業療法士 入職5年目)

功 績 回復期リハビリテーション病棟入院中の失調症を呈した脳出血の患者さんに対し、PC を用いた上肢協調運動機能評価を用いた作業療法を展開し、その結果を第6回神奈川県臨床作業療法大会で発表したところ、「大会賞」を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献した功績。

推 薦 者 丸山 祥(リハビリテーション部 部長)

推 薦 理 由 当院リハビリテーション部の落合俊太(作業療法士)が、回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者さんに対して、新しい評価方法を取り入れることにより、従来の評価の限界であった運動失調の数値化が行えるようになりました。これは、当院の理念である「質の高いリハビリテーション」の実践のために、大学と連携できた好事例であり、今後もこのような臨学連携と人材育成を進めて参ります。質の高い作業療法実践の成果を出し、学術的な知見として、第6回神奈川県臨床作業療法大会にて、「大会賞」を受賞し、当院の知名度向上にもつながった事は、理事長賞に値するとし、推薦いたします。

内 容

当院リハビリテーション部の落合俊太(作業療法士 入職5年目)が、回復期リハビリテーション病棟入院中の失調症を呈した脳出血の患者さんに対し、PC を用いた上肢協調運動機能評価を用いた作業療法を展開しました。このPCを用いた新しい評価方法によって、従来の評価の限界であった運動失調の数値化が行えるようになり、症状の変化についてより適切なフィードバックを行うことや、より妥当なリハビリアプローチの根拠につながる事が示唆されました。

上肢の運動失調の評価としていくつかの定量的な検査が提唱されていますが、数値化についても数段階の順序尺度に留まっており、それを「見える化」することが困難な場合があります。今回、TraceCoder(シスネット社製)を使用した上肢協調運動機能評価機器で測定した結果を連続変数として取り扱うことで、軽度失調症状を呈していた症例の失調症状改善の過程を詳細に示すことができたため、学術大会にてご報告いたしました。

実践の成果について、2024年12月8日に開催された第6回神奈川県臨床作業療法大会で、北里大学医療衛生学部の天野准教授、当院リハビリテーション部の作業療法主任の山岡と廣瀬、リハビリテーション部部長の丸山とともに演題を作成し、発表したところ(下記演題)、大会賞を受賞し、学術的貢献ならびに当院の知名度向上に貢献しました。

「失調症を呈した脳出血症例に対する PC を用いた上肢協調運動機能評価の実践」